

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

#### 4 本校の参加状況

- ① 国語 32人
- ② 算数 32人

#### 5 留意事項

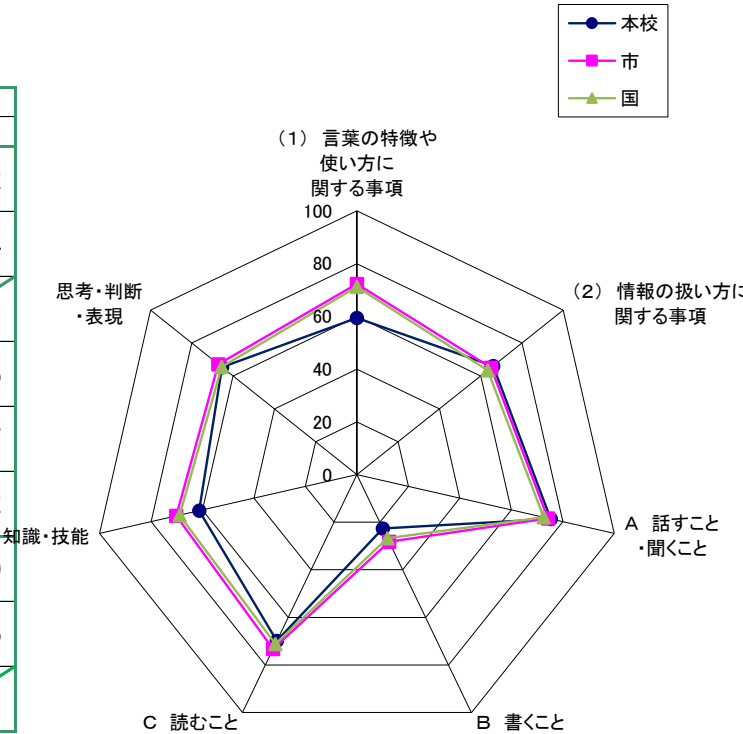
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 59.4 | 72.3 | 71.2 |
|     | (2) 情報の扱い方にに関する事項    | 66.1 | 65.0 | 63.4 |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項   |      |      |      |
|     | A 話すこと・聞くこと          | 75.3 | 74.2 | 72.6 |
|     | B 書くこと               | 22.6 | 28.2 | 26.7 |
|     | C 読むこと               | 69.9 | 73.3 | 71.2 |
| 観点  | 知識・技能                | 61.3 | 70.2 | 68.9 |
|     | 思考・判断・表現             | 65.4 | 67.2 | 65.5 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度        |      |      |      |



★指導の工夫と改善

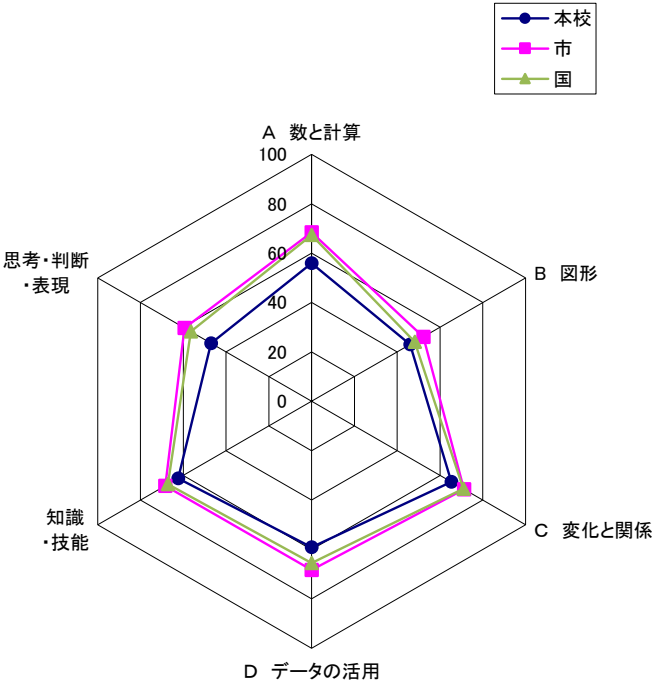
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使い方にに関する事項 | ●漢字を文の中で正しく使う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。特に、無回答の割合が多かった。漢字を正しく理解し、定着することに課題が見られる。<br>●文章の種類とその特徴について適切なものを選ぶ問題では、県や全国の平均を大きく下回った。     | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・漢字練習やAIDリルを使用した漢字の読み書きの復習に取り組んでいく。また、練習をするだけでなく、書いた文章を読み直し適切に漢字が用いられているかを確認したり、学習した漢字を使って文章を作ったりするなど、漢字の意味を理解し、文章の中で正しく使える学習方法を工夫する。<br>・教科書の教材文などで、筆者の考えなどを短くまとめる学習活動を取り入れ、文章の特徴を理解することができるようにする。 |
| (2) 情報の扱い方にに関する事項    | ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるか問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく上回った。<br>●原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかを問う問題の正答率は県や全国の平均を下回った。 | ・授業の中で線や記号を使いながら、情報と情報を関係付ける方法について指導してきた成果が出ているので、今後も引き続き指導を継続していきたい。<br>・説明文の学習において、原因と結果について書かれている箇所を抜き出し、どの部分が原因でどの部分が結果なのかを全体で確認する活動を行い、正しく理解することができるようにする。                                                                 |
| A 話すこと・聞くこと          | ○インタビューの質問の意図について正しいものを選ぶ問題の正答率は、県や全国の平均を上回っている。<br>●インタビューをして分かったことをまとめて書く問題の正答率は県や全国の平均をやや下回っている。                               | ・国語科の授業に関わらず、ペアワークやグループワークを多く取り入れている。今後も、友達の見解に対して自分の考えを明確にすることができるように、インタビューの機会を設け、話したり聞いたりするなどの言語活動を意図的に取り入れるなど、児童一人一人が自分なりの考えや意見がもてるようにする。                                                                                   |
| B 書くこと               | ●図表やグラフなどを見て米づくりの問題点について書く問題の正答率は、県や全国の平均を下回っている。無回答率は0%で文章を書こうとする意欲はあるものの、書く能力が十分でないことが課題である。                                    | ・各教科の授業において書く機会を多く設け、文章を書くことに慣れさせていく。簡潔に書いたり、詳しく書いたり、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるよう指導する。<br>・互いの書いた文章を読み合う機会を設け、具体的に感想や意見を述べ合い、自分の文章の良いところを見つけることができるようにする。                                                    |
| C 読むこと               | ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題の正答率は、県や全国の平均をやや下回っている。<br>●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題の正答率は、県や全国の平均をやや下回っている。            | ・物語や説明文などの長い文章の中から、必要な内容を見付ける活動を取り入れていき、情報を見付けることができる技能を高めることができるようにする。<br>・自分の考えをまとめる力を高めるには、「B書くこと」の「今後の指導の重点」に書いたようなことを指導することで高まってくると思うので、考えたことを書く機会を多く設けていきたい。                                                              |

宇都宮市立富屋小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と計算        | 55.9 | 68.4 | 67.3 |
|    | B 図形          | 46.0 | 52.2 | 48.2 |
|    | C 測定          |      |      |      |
|    | C 変化と関係       | 65.3 | 71.2 | 70.9 |
|    | D データの活用      | 59.1 | 68.3 | 65.5 |
| 観点 | 知識・技能         | 62.4 | 68.4 | 67.2 |
|    | 思考・判断・表現      | 47.0 | 59.4 | 56.5 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                           |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と計算   | ●一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をする問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。<br>●( )を用いた式や、加法と乗法の混在した式の計算をしたり、場面と関連付けて読み取ったりする問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。<br>●「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。                                                          | ・朝の学習の時間などを利用して、結合・分配法則などの計算の決まりを用いた加法、減法、乗法、除法が混じった問題に取り組み、反復練習を多く取り入れることで習熟を図る。<br>・文章題を解く際に、問題の場面を具体的にイメージし、問われている数量が何かを意識することで、正しい立式ができるよう支援する。<br>・およその数の学習について、数の範囲を表す言葉に着目して数を見るようにするなど、目的に合った数の処理を行い習熟を図る。 |
| B 図形     | ○正方形や正三角形、台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率と同等であった。<br>●高さが等しい三角形について、底面と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率をやや下回った。                                                                                                 | ・図形の面積を与えられた数値から求めるのではなく、平行線や他の図形の中から数値を見出し求積するなど、図形の様々な見方を養う機会を意図的にもつようにする。<br>・図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりすることを、様々な機会において復習させる。                                                                          |
| C 変化と関係  | ○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率と同等であった。また、伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる問題の平均正答率も、県や全国の平均正答率と同等であった。<br>●伴って変わる二つの数量が、比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率をやや下回った。 | ・伴って変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見付けたり、その比例の関係をj用いて、未知の数量を求めたりすることができるよう、習熟を図る。<br>・日常生活の具体的な場面をイメージさせながら、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表すことができるよう、習熟を図る。                                                                           |
| D データの活用 | ○二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率と同等であった。<br>●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見い出した違いを言葉と数を用いて記述する問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。                                                                                                                   | ・日常生活の事象についてや、各教科においても、目的に応じて、様々な表やグラフの読み取りをさせ、グラフからどんな特徴や傾向が読み取れるかや、表の数値が何を表しているかを文章で記述させる機会を設け、習熟を図る。<br>・データを分類整理させたり、様々な表やグラフから条件に合った読み取りをさせたりする機会を設け、データの活用力を身に付けさせる。                                         |

## 宇都宮市立富屋小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問には、全員が肯定的に回答した。栄養士が朝食をはじめとする食に関する取り組みを行っている成果であると考え、今後も継続して行っていきたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の両質問の肯定的回答率は全国平均を上回っている。本年度は、言葉で伝えるだけでなく、振り返りノートにおいてもほめる言葉を書いている。児童の自己肯定感を高めていくことができるように今後も継続して行っていきたい。

○「将来の夢や目標を持っているか」の質問への肯定的回答は、90%を超えており、県や全国の平均を上回っている。自分のよさを認め、夢や目標に向かって自信をもって様々なことに意欲的に取り組んでいくことができるように、学習だけでなく、学校行事などを通して、達成感を味わったり、自己有用感を高める場を多く取り入れたりしていく。

●「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童の割合は県や全国平均を大きく上回っている。学習面においては、分かると思える授業の工夫を今後も行っていき、楽しく学べる環境づくりに努めたい。生活面においては、各行事等で活躍の機会を多く与えることで、やりがいを感じ学校生活の充実につなげていけるようにしていきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は県や全国の平均を大きく下回っている。出された宿題をきちんとこなす力はついてきたが、自分で考えて勉強するという姿勢で学習に取り組んでいる児童は多くない。ドリルを行うような宿題だけでなく、自分で学習内容を決めて取り組むような宿題も出すことで、計画を立てて勉強する力を養いたい。

●「学校の授業以外で、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか」の質問に、「全く読まない」と回答した児童が県や全国をやや上回っている。「新聞を読んでいるか」の質問には、「全く読まない」と回答した児童も県や全国を大きく上回っている。「読書は好きか」の質問には、肯定的回答が県や全国と同等ではあるが、学校以外での読書量や読書の経験が少ないことが分かる。今回の各教科の調査結果から、様々な文章に触れる機会が少ないことにより、文章を読んだり、それを理解したりすることにも影響がでると想像される。児童が読書を通して、様々な文章に触れることができるよう、図書館司書と連携を図りながら、本を紹介したりする機会を設ける。

●「住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問に、昨年度の6年生は100%の児童が肯定的に回答したのに対し、本年度は75%にとどまっている。コロナの影響があることが推察されるが、感染症の分類も5類に移行したので、学校行事や総合的な学習などに関連付け、学校と地域が連携を図りながら地域を知り、地域のよさを感じることができるような学習を取り入れていく。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問の肯定的回答率は、県や全国の平均を下回っている。各教科の学習において振り返りの時間を設けているが、次の学習につなげるという視点が抜けていたため、まずは教師自身が学びのつながりを意識して、児童に伝えることができるようにしていきたい。

## 宇都宮市立富屋小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                             | 取組の具体的な内容                                                         | 取組に関わる調査結果                                                                                              |
|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 多様な視点から課題について考えることができる協働的な学習の指導の工夫 | 目的に応じたグループ学習や視点を明確にした話し合い活動を、教師が意図的にコーディネートする。                    | 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、81.3%で全国の平均と同等である。                |
| 分かりやすく伝える力や、正確に受け止め学び合う力を育てる工夫     | 一人一人の思いや願いをもとに、共通の視点をもって話し合うことができるよう、事前に自分の考えを書かせることで、伝える力の向上を図る。 | 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、59.4%で県の平均より3.3%下回っている。 |